

第2章 市川三郷町の将来像



第2章 市川三郷町の将来像

1 将来像とまちづくりの目標

「市川三郷町第1次総合計画」（平成19年3月）では、市川三郷町の将来像を次のように掲げています。都市計画マスタープランでは、この将来像を踏まえ、「まちづくり住民会議」など、様々な住民意見を基に、次のようなまちづくりの基本理念、まちづくりの目標*を設定しました。

■市川三郷町の将来像

（「市川三郷町第1次総合計画」に掲げる町の将来像）

<将来像>

「やすらぎ」づくり ～日本一の暮らしやすさをめざして～
学ぶまち／暮らしやすいまち／楽しむまち

■まちづくりの基本理念

<まちづくりの基本理念>

**「暮らしやすく」、誰もが愛着と誇りを感じ、いつまでも住み続けられる
元気なまちづくりをめざします。**

本町の歴史は古く、山梨県の古代文化発祥の地とされ、近世以降は、富士川舟運、和紙、花火、印章、養蚕などの産業が栄え、西八代地域の中心として発展してきました。

本町は、合併により、千年の歴史を持つ和紙と日本有数の花火の産地として名高い「市川大門町」、当代随一の歌舞伎の名門・市川團十郎発祥の地として知られる「三珠町」、明治時代から印章業を基幹産業として発展してきた名実ともに日本一のハンコの生産地「六郷町」、それぞれが持つ長い歴史と文化、そして伝統が受け継がれています。

また、御坂山系の山々に抱かれ、四尾連湖や芦川溪谷をはじめ、豊かな森林、河川や湖の水辺など、豊かな自然環境と四季折々の美しい風景、優れた眺望に恵まれており、魅力的な観光レクリエーション資源も多く分布しています。

こうした特色ある歴史や文化、自然などの資源は、本町の誇れる大きな財産です。

長い歴史と営みの中で育まれてきたこれらの財産を守り、育み、次代を担う子ども達に伝えていくことは今を生きる私たちにとっての大きな務めであると考えます。

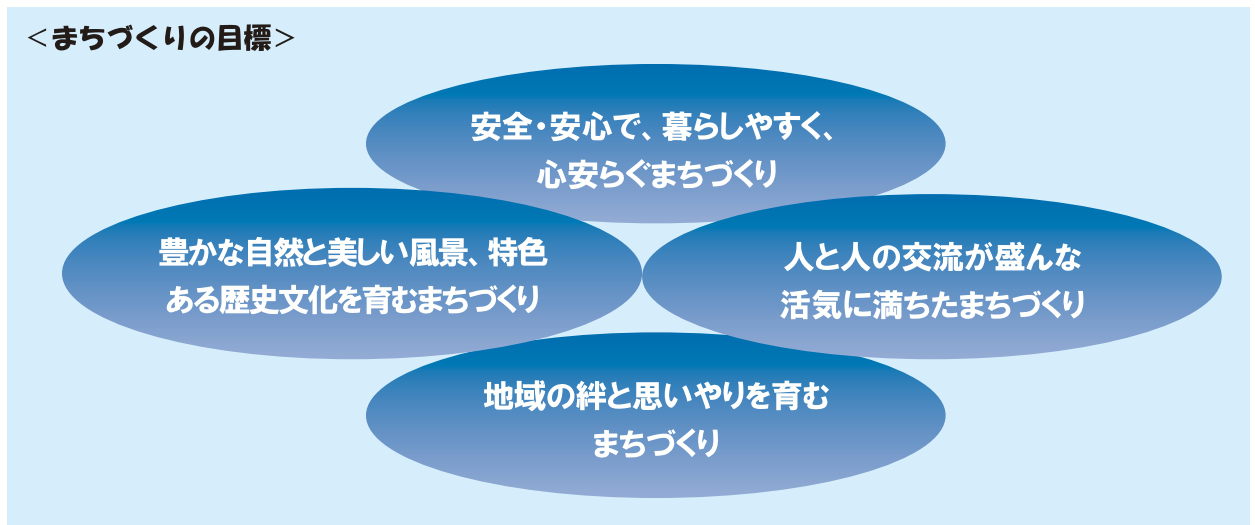
一方、本格的な少子・高齢化社会の到来、産業構造の変化、長期的な景気の低迷、地方分権化の進行に伴う地域社会の役割、国際化・情報化の進展、地球環境問題への関心の高まり、人々のライフスタイルや価値観も多様化するなど、本町をとりまく社会・経済環境は変化しており、まちづくりに求められることも多種多様となっています。

本町では、「暮らしやすさの実現」をまちづくりの柱に据え、こうした社会・経済環境の変化を見据えながら、**住民一人ひとりが美しい自然や風景、長い間培った歴史や文化、人々の絆を大切に、誰もが「わがふるさと」として愛着と誇りを感じ、「この町に住んで良かった」といえるような、暮らしやすく、いつまでも住み続けられる元気なまちづくりをめざします。**

注) *基本理念やまちづくりの目標については、「まちづくり住民会議」で提案された地域別まちづくりプランの基本理念や目標をもとに設定しています。

■まちづくりの目標

まちづくりの基本理念にもとづき、次のようなまちづくりの目標を設定します。



① 安全・安心で、暮らしやすく、心安らぐまちづくり

生活環境の充実、高齢者や障害者など人にやさしいまちづくり、防災性の向上など、子どもからお年寄りまで誰もが安全・安心で、暮らしやすく、心安らぐまちづくりをめざします。

② 豊かな自然と美しい風景、特色ある歴史文化を育むまちづくり

ふるさとの誇りである豊かな自然環境、四季折々の美しい風景、長い間育まれてきた地場産業や伝統技術、祭などの歴史文化を大切に守り・育むとともに、その魅力を再認識し、まちづくりへの積極的な活用をめざします。

③ 人と人の交流が盛んな活気に満ちたまちづくり

中心商店街の活性化、地場産業や基幹産業である地域農業の活性化、地域の魅力や資源を活かした観光の振興、企業誘致、定住促進などにより、人と人の交流が盛んな活気に満ちたまちづくりをめざします。

④ 地域の絆と思いやりを育むまちづくり

祭や冠婚葬祭、自治会活動から日々のふれあいなど、長い時間をかけて育まれてきた地域の絆を大切にするまちづくりをめざします。



・(都) 役場前線

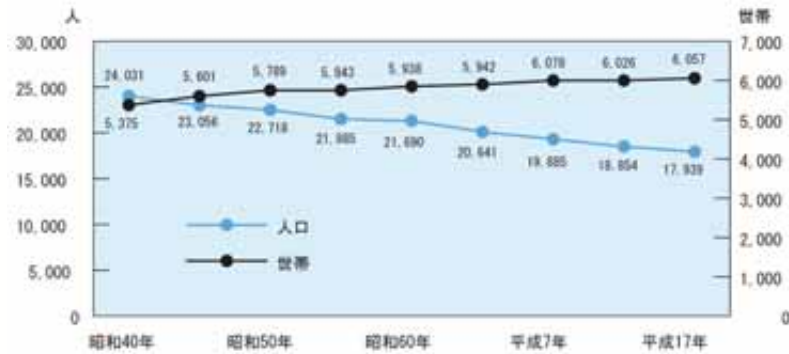
2 目標人口

(1) 将来人口の推計

本町の人口は、昭和40年から40年間の推移をみると、長期的に減少傾向にあり、昭和40年の約2万4千人から平成17年には約1万8千人と40年間で約6千人（年間平均150人）の人口が減少しています。

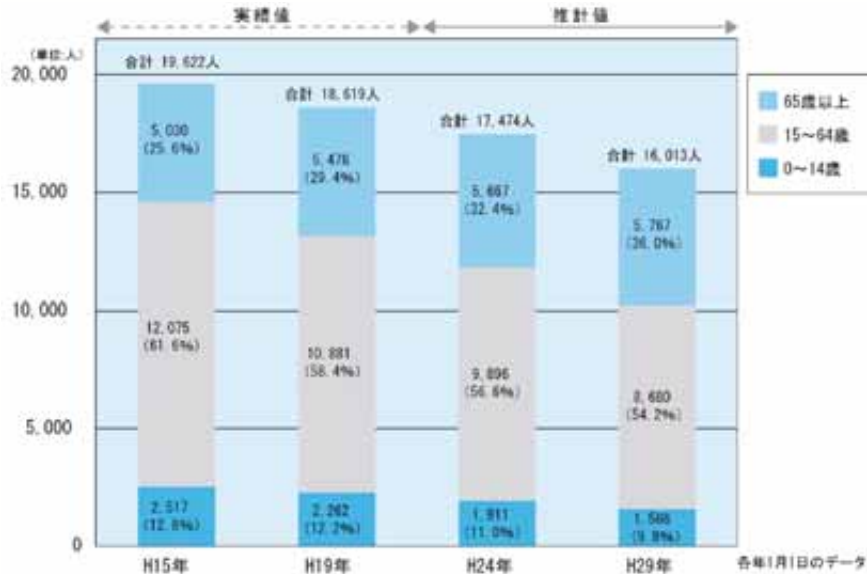
本町の将来人口は、「市川三郷町第1次総合計画」（平成19年3月）による人口推計（国勢調査に基づくコーホート変化法）によれば、このままの傾向で推移すると、目標年次の平成29年には、総人口は約1万6千人まで減少し、そのうち65歳以上の高齢者の占める割合（高齢化率）は、平成19年の29.4%から36.0%となることが予想されています。

■市川三郷町の人口推移



(資料：国勢調査)
(出典：「市川三郷町第1次総合計画」)

■市川三郷町の将来人口推計（年齢3区分）



(住民基本台帳より推計)
(出典：「市川三郷町第1次総合計画」)

(2) 目標人口

「市川三郷町第1次総合計画」では、目標年次（平成29年度）における目標人口は、今後、積極的な福祉や子育て支援、生活環境の整備など暮らしやすさの向上と住宅政策の推進により、20,000人まで増やすことを目標としています。

本計画においても同様の考え方に立ち、暮らしやすさと魅力あるまちづくりを進め、平成29年の目標人口をその後も維持することを目標に、目標年次である平成40年の目標人口を20,000人と想定します。

■目標人口： 20,000 人（平成40年）

3 まちの将来構造

(1) 将来構造の方針

1) 基本的な考え方

本町の将来構造は、次のような考え方に基づいて設定します。

豊かな自然と美しい景観に恵まれた大地の構造を土台に、多様な拠点、3地域、周辺都市が有機的にネットワークされた、コンパクトで一体感のあるまちの構造の形成をめざします。

本町の土地利用からみた地域構造は、御坂山地と周辺丘陵地からなる森林・里山エリアと笛吹川や富士川からなる大地の構造を土台に、低地部を中心に市街地や田園エリアが帯状に形成されたコンパクトな構造となっており、本町の大きな特徴となっています。

将来の構造は、長い歴史と人々の営みの中で形づくられてきた現在の構造を損なうことがないように、豊かな自然と美しい景観に恵まれた大地の構造を土台に、多様な拠点、旧町を基本とする3つの地域、周辺都市が有機的にネットワークされた、コンパクトで一体感のあるまちの構造の形成をめざします。

2) 将来構造の形成方針

本町の将来構造については、次のような方針に基づいて形成を図ります。

① 市川地区中央部をはじめ、魅力的で活力ある多様なまちの拠点を形成します。

【まちの拠点】

市川地区中央部を本町の中心市街地として位置づけ、都市機能の強化と魅力の向上を図ります。

また、市川地域の高田地区、黒沢地区、三珠地域の上野地区、六郷地域の岩間地区など、古くから地域の生活の中心となっているところについては、生活サービス機能の強化や特性を活かしたまちの魅力づくりを進め、個性と活力ある地域生活拠点として形成します。

そのほか、県立四尾連湖自然公園、市川公園などの観光レクリエーション拠点、平塩の岡の甲斐源氏旧跡などの歴史文化拠点、市川三郷町役場周辺の行政文化拠点、大塚工業団地の工業拠点や(仮称)六郷IC周辺の新たな活性化拠点など、多様な拠点の育成を図り、まち全体の活力を高めていきます。

② 3地域間や周辺都市との交流・連携を促す骨格的な道路交通網の強化と多彩な交流軸を形成します。

【骨格道路網と主要な交流軸】

広域からのアクセスの向上、3地域間や中央市、甲府市など、周辺都市との連携・交流を強化するため、中部横断自動車道((仮称)六郷IC)の建設促進や主要な幹線道路の整備、JR身延線の運行強化や主要駅の交通結節機能の強化など、骨格的な道路交通網を強化します。

また、道路交通網の強化と併せて、中心市街地や地域生活拠点などの「まちのにぎわい軸」、中央市など周辺都市との交流を担う「都市交流軸」、3地域や周辺地域との交流を担う「地域連携軸」、観光交流を担う「観光レクリエーション軸」、自然や景観の軸となる「骨格的な水と緑の軸」など、多彩な交流軸を形成します。

③ 豊かな自然や美しい景観と調和し、コンパクトでバランスのとれた土地利用を形成します。

【土地利用エリア】

本町の地形構造や土地利用の特性から、町土を大きく次の4つのエリアに区分し、エリアの特性に応じた計画的な土地利用の推進を図り、豊かな自然や美しい景観と調和し、コンパクトでバランスのとれた土地利用を形成します。

- 市街地エリア (市川地域および三珠地域の市街地エリア)
- 田園居住エリア (低地部の農地、住宅・集落地エリア)
- 里山エリア (中山間地域の里山や農山村エリア)
- 山地・森林エリア (御坂山地など、町東部一帯の山地・森林エリア)

(2) 将来構造の設定

将来構造の基本的な考え方や形成方針に基づき、本町のまちの将来構造を次のように設定します。

■将来構造の設定

まちの拠点

- **中心市街地** (市川地区中央部)
- **地域生活拠点**
(市川地域の高田地区、黒沢地区、三珠地域の上野地区、六郷地域の岩間地区)
- **行政文化拠点** (市川三郷町役場周辺)
- **観光レクリエーション拠点**
(県立四尾連湖自然公園、市川公園、大門碑林公園、花火公園、みたまの湯周辺、歌舞伎文化公園、芦川溪谷、富士見ふれあいの森、六郷の里つむぎの湯)
- **歴史文化拠点**
(甲斐源氏旧跡、市川陣屋跡、双幹のけやきなど)
- **工業拠点** (大塚工業団地、市川地域の工業集積地)
- **新たな活性化拠点** ((仮称)六郷 IC 周辺)

主要な交流軸

- **まちのにぎわい軸**
(市川地区中央部の役場前線や中央通り、三珠地域上野地区や六郷地域岩間地区の既存商店街通りなど)
- **都市交流軸**
(国道 140 号、主要地方道甲府市川三郷線、市川三郷富士川線など)
- **主要な地域連携軸**
(富士川町や身延町を結ぶ主要地方道市川三郷富士川線、市川三郷身延線、増穂 IC を結ぶ富士川西部広域農道など)
- **主要な観光レクリエーション軸**
(県道四尾連湖公園線、金川曾根広域農道、主要地方道笛吹市川三郷線)
- **骨格的な水と緑の軸**
(笛吹川、富士川、芦川)

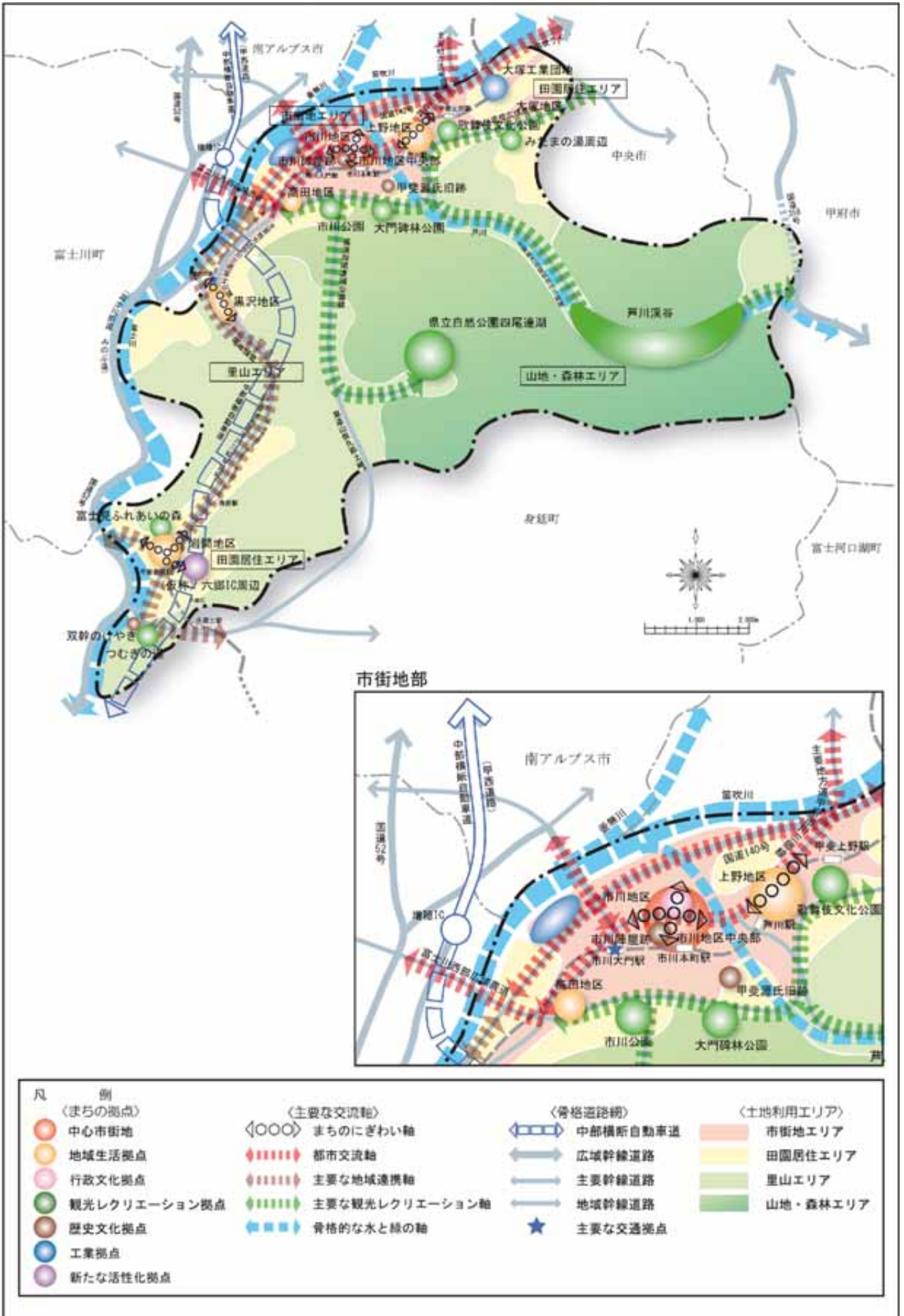
骨格道路網

- **広域幹線道路**
(国道 140 号、中部横断自動車道)
- **主要幹線道路**
(主要地方道市川三郷富士川線、市川三郷身延線、笛吹市川三郷線、六郷地域の新たなバイパスなど)
- **地域幹線道路**
(県道四尾連湖公園線、山保久那土線、甲斐岩間(停)西島線、金川曾根広域農道など)
- **主要な交通拠点**
(JR 身延線の市川大門駅、鯉沢口駅、甲斐岩間駅など)

土地利用エリア

- **市街地エリア** (市川地域の用途地域およびその周辺市街地)
- **田園居住エリア** (低地部の農地および田園住宅地)
- **里山エリア** (里山と農山村を中心とした中山間地域)
- **山地・森林エリア** (東部一帯の山地・森林地域)

市川三郷町の将来構造





・寺所さくらの里